



2019年5月31日

各 位

会社名 マックスバリュ中部株式会社
代表者名 代表取締役社長 鈴木 芳知
(コード番号：8171 名証第二部)
問合せ先 取締役兼常務執行役員管理本部長 望月 俊二
(TEL：052-857-0719)

「当社取締役会の実効性の分析・評価」結果の概要について

当社は、「コーポレートガバナンス・コード」に基づき、取締役会の機能および実効性のより一層の向上に取り組むことが重要であると考えております。この取り組みの一環として、取締役会の実効性に関する分析および評価を行い、この度、2018年度の分析・評価が完了しましたので、その結果の概要を下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 評価の方法

(1) 本年度の分析・評価では、以下の事項を内容とするアンケートをすべての取締役・監査役に配布し、その回答を得ました（回答は無記名方式）。本回答の集計結果に基づき、取締役会において、外部機関からいただいた意見も参考にして、当社グループの企業価値を持続的に向上させるためのコーポレートガバナンスのあり方という観点から、当社取締役会の実効性に関する議論を行いました。

(2) 評価項目

評価を実施した大項目は以下のとおりです。

〔無記名アンケートの内容〕

- I. 取締役会の役割・機能
- II. 取締役会の構成・規模
- III. 取締役会の運営
- IV. 監査機関との連携
- V. 社外取締役とのコミュニケーション
- VI. 株主・投資家との関係

2. 分析・評価結果の概要及び課題について

I. 取締役会の役割・機能

各取締役は、積極的に監督及び助言のための発言及び質疑を行い、全体として活発・建設的な議論がなされていると認識いたしました。

今後の検討課題としては、議題の設定・効率的な報告等の具体的な工夫、情報提供のあり方や会議の時間配分の改善について継続的に検討してまいります。

II. 取締役会の構成・規模

独立社外取締役を含め、専門性と経験を備えた取締役でバランス良く構成され、活発な議論・検討、迅速な意思決定を行っており、構成人数も適切であると認識いたしました。

今後の検討課題としては、ダイバーシティの観点を踏まえた構成を継続的に検討してまいります。

Ⅲ. 取締役会の運営

各取締役は、積極的に発言及び質疑を行い、全体として活発な議論がなされ、一定の実効性が確保されていると認識いたしました。

今後の検討課題としては、更なる実行性を向上させるため、取締役会の議題を、より戦略的な議題に傾注させ、そのための議題選定、効率的な報告等の工夫、資料の一元化等の情報提供のあり方や会議の時間配分の改善をまいります。

Ⅳ. 監査機関との連携

全体として監査機関と適切な連携がなされていると認識いたしました。

今後の検討課題としては、内部通報事例やリスク分析、情報・意見交換等のコミュニケーションを図る機会の充実等を通じ、内部監査機能の改善・充実を促進してまいります。

Ⅴ. 社外取締役とのコミュニケーション

全体として社外取締役との適切なコミュニケーションが取られていると認識いたしました。

Ⅵ. 株主・投資家との関係

全体として株主との建設的な対話促進の制度が取られていると認識いたしました。

今後の検討課題としては、株主のみならず、投資家に向けた情報発信対応の改善と、社内ガバナンス体制の充実化を進めてまいります。

3. 今後の検討方針

これらの分析・評価結果につきましては、2019年度取締役会の運営課題として対応していくと同時に、中長期的な課題については引き続き取締役会の中で議論し、取締役会の更なる機能向上に取り組んでまいります。

以上